

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300534		
法人名	医療法人みらい会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	青森県平川市李平上山崎53-1		
自己評価作成日	令和6年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和6年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは自然に囲まれた静かな環境にあり、敷地内の広大な庭には、色とりどりの花々がきれいに咲きます。また、入居者様が散歩できるよう、散歩コースもあり、四季を通して楽しむことができます。 更に、お風呂は温泉で、心や体に安らぎを与えてくれます。 また、地域のねぷた見学や夏祭りにも参加し、地域交流を図ると共に、併設する介護老人保健施設と連携し、緊急時や災害時にも協力が得られる体制になっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺には広大な庭園があり、様々な果樹や桜、紅葉等の木々が植えられ、利用者は季節を感じながら散歩できる環境である。 介護老人保健施設と渡り廊下で行き来でき、災害時の協力や24時間の医療連携により、利用者の緊急時に対応できる体制を整えている。また、看取り介護の対応により、利用者がホームで最期まで過ごすことができる体制も整えている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者主体の理念を掲げ、各ユニットの職員が見やすい場所に掲示し、共有している。	理念をスタッフルームやホール、玄関前に掲示しており、職員が出勤時に確認する等、理念を共有し、理解を深められるように取り組んでいる。職員は利用者が誇りや喜びを感じることができるよう、日々、理念を反映させた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加やホーム周辺のごみ拾いを行う等、地域の一員として活動している。	町内会に加入している他、地域の清掃活動への参加や地域のねぶた祭りの見学等を行っている。また、運営推進会議のメンバーへ、防災訓練参加を働きかけている他、スーパーマーケットや美容院等の地域資源に関わりながら、交流を図るための働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から対面開催に戻り、ホームの活動内容や入居者の状況等を報告している。また、意見や質問等はそこで聞き、実践に繋げている。	運営推進会議では、ホームの行事や研修、活動状況等の報告の他、防災訓練への参加も促している。メンバーからは、コロナ禍等の労いの言葉や感染症対策等について質問があり、ホームの運営に活かしていけるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で入居者の状況等を報告している。また、困難事例等があれば、随時相談している。	市役所からファックスやメール、電話で連絡事項が届いたり、災害対策や生活保護、成年後見制度に関する事等、課題解決に向けて相談し、行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内容を見やすい場所に掲示し、職員同士、統一された認識で業務に取り組めるように努めている。また、勉強会や身体拘束検討会議を定期的に行っている。	身体拘束に関する指針やマニュアルを整備しており、委員会も定期的に関行している。職員は外部研修や勉強会等を通じて、身体拘束の内容や身体的・心理的弊害について理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する内容を、職員が見やすい場所に掲示している。また、勉強会を定期的に行い、不適切ケア等についての理解も深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、資料を活用して学ぶ機会を設けており、家族へ助言できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書と重要事項説明書の内容を説明し、同意を得ている。また、契約解除時は今後について話し合い、納得いただけるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けると共に、意見箱を設置し、苦情・意見が出やすいように努めている。また、契約時に、県・市町村の苦情窓口についても説明している。	意見や苦情等が出された場合は、苦情処理検討委員会や申し送り等で、管理者及び職員で話し合い、対応策を検討する等、解決に向けて速やかな対応を行う体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング等で、職員の意見や要望を聞くように努めている。勤務体制や異動については、入居者との関係性を保てるように配慮している。	定期的に会議を開催し、利用者の受け入れや業務の改善策等について、職員の意見を確認している。また、職員の異動は法人全体で行われるが、利用者と職員の馴染みの関係を保てるよう、配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や、保有資格を活かした職員配置と人事考課を行っている。また、就業規則に則って、職場環境と労働条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、勉強会等を行い、職員一人ひとりのスキルアップに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加時は同業者と交流をして、情報交換を行い、ホームでの業務に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望があった時点で本人と面会し、困っている事や不安、要望等を聞いて、安心してもらえるように努めている。また、面会時は、話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望があった時点で施設見学をしていたが、家族の困っている事や不安、要望等を聞き、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、他のサービス利用に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力に応じて、軽作業等を一緒に行ったり、入居者と職員が共に暮らせる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の物品依頼をする際に、本人の状況や状態等を報告している。また、月1回、介護状況報告書を郵送し、本人の状態を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からのかかりつけ医への通院、スーパーや美容院等へ行くようにしている。また、知人への手紙や年賀状を書き、郵送している。自宅へ行きたいと訴えた場合は、通院帰り等を利用して、自宅へ寄って来れるように支援している。	友人等との電話や年賀状のやり取りをお手伝いする等、利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。ホームでは面会を積極的に受け入れ、ゆっくりと気兼ねなく話ができるよう、環境作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士で会話ができるよう、ホールでの座る位置等に配慮している。職員の介入により、コミュニケーションが取りやすくなるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、必要場合は相談に応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と関わりを持つ中で、本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、日々の状態観察や本人の生活歴等から、希望や意向を汲み取るようにしている。	利用者の生活歴や日々のケアを通して、思いや希望、意向を把握するように努めている。また、コミュニケーションが難しい利用者については、表情や仕草等を申し送りノートに記入し、全職員が利用者の視点に立って、意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に面会した際に、本人や家族から生活歴を聞いている。また、入所前に利用していたサービスがある場合は、他事業所からの情報収集も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態観察で本人の現状把握に努め、申し送りやユニット内の職員間の話し合いで、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを行い、変更の必要があれば家族にも相談し、介護計画の見直しを行っている。	家族からも、今後の支援について意見や要望を確認し、介護計画を作成している。また、必要に応じて、医師や看護師等、利用者をよく知る方達の意見や気づきを反映させ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテと介護日誌を活用し、日々の様子やケアの実践等を記録して活かしている。また、必要時は介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化による急な受診や入院等、すぐに家族が対応できない時は家族と連絡を取りながら、柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村で開催されている行事や祭り等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望を聞き、本人や家族が希望したかかりつけ医の診療を受けられるよう、支援している。また、何かあればすぐに医師に相談し、早い対応ができるように支援している。	入居時のアセスメントにより、利用者や家族から聞き取りを行い、これまでの受療状況を把握している。また、入居後の受診や対応方法について、意思確認を行い、希望する医療機関を受診できるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や受診時に都度、入居者の状態を報告している。また、情報を共有し、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーで情報交換を行っている。また、定期的に病院の関係者と連絡を取り、状態の把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りに関する指針を作成し、入所時に説明を行い、本人と家族の希望を確認している。また、状態の変化時には、家族との話し合いをしている。	利用者の重度化や終末期の対応について、入居時に指針を示して説明をしており、ホームとしての方針を明確にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、勉強会等で周知しているが、実践的な訓練は行っていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設の介護老人保健施設と合同で避難訓練を行っている。また、定期的に、自然災害時における業務継続計画の確認を行い、全職員が対応できるように努めている。	年2回、職員と利用者が一緒に、併設の介護老人保健施設と協力し、時間を測定しながら、定期的に避難訓練を行っている。災害発生時に備え、3日分程度の食料や飲料水、防寒具類、ヘルメット、ストーブ等を用意している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴介助時は、プライバシーに配慮した声がけや対応を行っている。	利用者への声がけや対応について、勉強会で話し合う等、ホーム全体で日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。また、守秘義務や個人情報の取り扱いについて、職員は勉強会で再度確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図る中で、本人の思いや希望を引き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時、どのように過ごしたいかを把握し、入居者のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマや毛染め等の希望があれば、本人の馴染みの美容室へ行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭きやおしぼりたたみ等、入居者のできる事を手伝ってもらっている。	食事は、利用者の禁忌食品や不人気食品にも配慮している。また、刻み食やとろみ食等の食事形態についても、利用者の状況に応じて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせた食事量や形態で提供している。また、毎食時の摂取量をチェックし、把握している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや口腔ケアを行っている。うがいができない入居者には、口腔ケアシートや口腔ケアスポンジ等を使用し、ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を毎回記入し、入居者毎に排泄状況を把握している。	声がけの際は利用者の羞恥心に配慮し、言葉遣いにも注意しながら、周囲に気づかれないうように小声で行っている。また、排泄の失敗があっても、本人が落ち込まないように、さりげなく速やかに誘導し、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分チェック表を活用し、入居者の状態把握に努めている。家族には季節の果物を持って来てもらったり、水分を多く摂るように促す等、一人ひとりに合った便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日や入浴時間等は決まっているが、受診や外出等で入浴できなかった場合は、次の日に入浴していただく等、臨機応変に対応している。	入浴に対する利用者の好みや羞恥心、負担感に配慮した上で、週2回は入浴できるように支援している。また、利用者の体調を考慮し、清拭や足浴を行う等、柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠できるよう、レクリエーションや家事作業等、日中の活動を多くしている。また、個々の体調に合わせて、日中でも休める時間を作る等、状況に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方になった際は、準備をする時から複数の職員で確認をしている。また、内服の変更があった際は、個々の状態観察を行い、申し送りノートを活用して、職員同士で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者毎の生活歴や趣味等を把握し、役割や楽しみを持って生活できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事計画は外出行事を多く取り入れ、楽しめるようにしている。また、施設周辺の散歩や、病院帰りに自宅や買い物に寄りたいたいの希望があれば、対応している。	日常的に、ホーム周辺を散歩できる機会を設けている。日々の会話を通して、行きたい場所や思い出の場所等の把握に努め、年間の外出行事を企画し、外出支援をしている。また、自宅へ行く等、必要に応じて利用者の希望が叶えられるよう、家族にも協力を働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の意向や能力に応じて、家族と相談しながら対応している。外出時の買い物は、自身で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるよう、公衆電話を設置している。また、知人や家族からの手紙には、返事を書く支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節毎の飾り付けをしている。温度や湿度をチェックしている他、音や光にも配慮している。	ホールや廊下には、季節を感じられる手作りの作品が飾られている。また、利用者が思い思いの場所でゆっくりと寛げるよう、ソファや小上がりの他、廊下にもベンチを配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテーブル・椅子・ソファ等を設置し、その時々で自由に過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前から使っていた物を持って来ていただいたり、家族の写真を置いて、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	居室には利用者の愛用品の持ち込みがある他、行事の写真や手作り作品を飾る等、安心して穏やかに生活できるように支援している。また、利用者の状況に応じて、ベッドの向きやトイレまでの導線を考慮した居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターやバリアフリー、手摺りの設置により、移動しやすいように配慮している。また、居室も、入居者一人ひとりの動線に合わせた環境整備に努めている。		